

夢窓幼稚園通信第56号

2014年 10月 31日

日が落ちると ずいぶん冷え込む季節となりました。

数日前は、まぶしいくらいに朝日が昇ってきても、すぐには暖かくならず、この秋はじめて吐く息が白く流れました。

一人の年長の男の子が登園してきて身仕度を済ませたかと思うと、「さむい さむい さむい〜」と言いながら小走りでやってきました。風の子もさすがに今日は寒いんだなあ”と思っていると、おひさまの光でそこだけ黄色く光っている渡り廊下の所で急にうつ伏になりました。

“あれ？ 何してる？”と眺めていると・・・「あー あったかい！ もういっかいねれそう！」って・・・

無駄のない、はじめから一番おひさまの光がいっぱいの目標目指してやってきた、実に鮮やかな動きに魅せられ、真似したくなりうつ伏してみると、何とあたたかなのでしょう！

「わあ、 あったかいねえ！ おひさまのかってすごいね！！ ほんとうに もう一回 眠れそうだね！！」

次そして その次と やってきた子どもたちも、先生も その訳を知って、みんな寝ころび出して「ほんとうだね！」

一人の子から始まった うれしいうれしいつながりです。

寒い日の朝のひなたぼっここのひと時は、実にあたたかい幸せなひと時でした。

ころりとあたたかさ、ひなたぼっこつながりの中で感じながら、「今生かざれていることを、今生きていることをかみしめていました。

以前「現実というのは、目の前にある状況のことではなく、自分が思いをこめたり関わったりすることによって立ち現われてくるもの」であることをイメージしたときのように、例えば「自由」も今自由かどうかではなく、自由に向かって自分がどうあるうとしているかが問題なのでしょうし、例えば「伝統」というのも未来に伝統と呼ばれるものを、今自分がどう関わって築いていこうとしているかが問われるのでしょう。

あらゆることが「今の自分の境遇や状態」を超えて、自分の問題として、「自分の意志の関わりの問題」として向き合えるときに、世界と結びつくことができるのだ・・・という思いが、身体の奥深くから湧きあがってくるのを感じていました。

昔「ほく おひさまに なりたかったな！ たって、みんなよろこばずことができるもの！」と言った子がいたことを思い出しました。

寒い季節、寒々しい時代でも、それだからこそ、あたたかさを自分の心の熱、意志の熱から作り出していきたいものですね。

11月、私たち一人ひとりが、おひさまの子として、与えられた役割を確かめながら、収穫感謝の月を過ごすことができますように！

風邪をひいたり お腹をこわしたりすることなく元気にいられますように！
今調子をくずしている子は 早く元気になることができますように！

園長 弁光 泰雄